

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
521	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Maternal alcohol consumption during pregnancy and risk of childhood leukemia: systematic review and meta-analysis. 母親の妊娠期のアルコール摂取と小児白血病の危険性：系統的レビューとメタアナリシス	
<b>執筆者</b>	
Latino-Martel P, Chan DS, Druesne-Pecollo N, Barrandon E, Hercberg S, Norat T.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 19(5): 1238-1260 (2010)	
<b>キーワード</b>	
アルコール、小児白血病、急性骨髄性白血病、妊娠期エタノール曝露	
<b>要旨</b>	
<b>背景：</b> 白血病は小児で最も頻繁に発症するガンである。その病因はほとんど分かっていないが、白血病は遺伝的因子と環境的要因の相互作用の結果として発症すると考えられている。様々な潜在的な危険因子のなかで、妊娠期間中の母親のアルコール摂取との関連が疑われている。	
<b>方法：</b> 妊娠期の母親のアルコール摂取と小児白血病との関連について確認するため、発表されている研究の系統的レビューとメタアナリシスを行った。	
<b>結果：</b> 21 の症例-対照研究は、内容について分類され、用量-応答についてメタ分析した。対象として研究にはコホート研究は含まれていなかった。分析は白血病の病型、診断された時の子供の年齢、母親が摂取したアルコールの種類とアルコールを使用した時の妊娠三半期の時期を基に行った。妊娠期のアルコール摂取は小児急性骨髄性白血病 (AML) と統計的に有意に関連していたが [オッズ比、1.56 ; 95%信頼限界、1.13-2.15]、しかし、急性リンパ性白血病との相関は認められなかった [オッズ比、1.10 ; 95%信頼限界、0.93-1.29]。研究間の不均一性が確認された。1週間当たりの飲酒量の増加に対する AML のオッズ比は 1.24 (95%信頼限界、0.94-1.64) であった。不均一性なしの 5 研究で、0 から 4 歳でガンと診断された場合に AML と妊娠期のアルコール摂取との相関が認められた [オッズ比、2.68 ; 95%信頼限界、1.85-3.89]。	
<b>結論：</b> 症例-対照研究の結果は妊娠期の母親のアルコール摂取は幼児での AML 発症危険性を有意に増加させる。妊娠期の母親の飲酒を厳密に避けることが小児急性骨髄性白血病の危険性を低下させることにつながるものと考えられる。	